神無月（かんなづき）　第680号

むなかた

目次

第二宮・第三宮　正遷座祭　3･2
全国豊かな海づくり大会　4
神宮神宝より紐解く　5
神宝館だより・お知らせ　6
宗像大社歌会詠草　7
御造営奉賛者御芳名　7

よてす。沖津宮の御分霊を祀る第二宮・中津宮の御分霊を祀る第三宮の遷座祭が斎行され四十二年ぶりとなる社殿の修復を行い、半年振りに二宮それぞれにお戻りになった▼この修復には伊勢の神宮より下賜いただいた御用材を使用している。遷宮によって解体された社殿は御用材として神宮の宇治橋や鳥居、全国の神社に下賜されリサイクルされている▼遷宮は自然の循環にも配慮し、また技術の継承という性格をも含んでいる。自然環境に配慮することは、鎮守の森を守ることに繋がる▼現在、世界文化遺産登録により発信力が高まるなか、「鎮守の杜」を海まで拡げた取り組みを行っている。宗像国際環境100人会議である▼この環境に関する国際的な会議を四年連続で行い「海の鎮守の杜構想」を進めている。この会議によって「海の環境」に対する個々の価値観の転換を促している▼環境と神社・・・一見繋がっているように見えない両者だが実は様々な循環系のなかで繋がっている。持続可能な循環型社会のなかで生かされていることを私たちは忘れてはいけない。（黒）

第二宮・第三宮　遷座祭　諸前儀

平成二十九年
九月　五　日午前十時　洗清の儀（浄衣）
九月十三日午前十一時　御飾の儀（浄衣）
九月十三日午後一時　新　殿　祭（浄衣）
九月十三日午後三時　清祓の儀（浄衣）
九月十四日午後二時　神宝読合（浄衣）
九月十四日午後五時　川原大祓（斎服）

第二宮・第三宮　正遷座祭　式次第

当日早旦社殿を装飾す
時刻、宮司以下祭員参進
（是より先　手水の儀あり）
宮司以下祭員祓舎に著く
修祓

これより仮殿（辺津宮）

宮司以下祭員　渡・拝殿所定の座に著く
宮司一拝（諸員之に倣ふ）
宮司第二殿（第三殿）の
御扉を開き畢りて側に候す
（此の間　奏楽・警蹕、諸員平伏）
宮司祝詞を奏す（此の間　諸員平伏）
宮司殿内に参入し諸員各其の位置に列立す
奉遷（此の間警蹕）
出御（此の間　奏楽・警蹕）

これより第二宮

入御（此の間　奏楽・警蹕）
宮司祝詞を奏す
宮司玉串を奉りて拝礼（祭員列拝）
宮司御扉を閉じ畢りて本座に復す
（この間奏楽　警蹕　諸員磬折）
宮司一拝（諸員之に倣ふ）

これより第三宮

入御（此の間　奏楽・警蹕）
宮司祝詞を奏す
宮司玉串を奉りて拝礼（祭員列拝）
宮司御扉を閉じ畢りて本座に復す
（この間奏楽　警蹕　諸員磬折）
宮司一拝（諸員之に倣ふ）
参列者一同拝礼
各退出

第二宮・第三宮 正遷座祭斎行

九月十五日第二宮・第三宮の御祭神が、仮殿としていた辺津宮本殿より修復を終えた両宮へと遷御された。

第二宮は田心姫神、第三宮は湍津姫神をお祀りしており、両宮共に本殿は、昭和四十八年の第六十回神宮式年遷宮の後、皇大神宮別宮である伊佐奈岐宮、伊佐奈弥宮の古殿を御下賜いただき、同五十年に建設された。それから四十年余が経過し各所に傷みが見受けられるようになった為、この度、「平成ノ大造営」事業の一環として修復を行なうこととなった。三月一日に仮殿遷座祭終了後、八月末迄の約半年をかけて屋根の葺替、腐朽した木材部分の取替え等がなされ、四十二年振りに瑞々しく整えられた。

祭典当日、台風十八号の接近による影響が心配されたが、雨風吹き荒れることなく、神職・当社氏子青年会々員四十名余の奉仕のもと、午後八時、「御」は浄闇のなか遷御された。翌十六日は、雨天となるも、遷座後、初めての神饌を供えての奉祝祭を執り行い、諸前儀を含め五日から始まった遷座祭一連の祭儀を滞りなく終えることができた。

十五日遷座終了後、祭典の片付けを全て終えた午後九時半、激しい雨が降り出した。まさに神の存在、神威を感じずにはいられなかった。

第二宮・第三宮　奉祝祭　式次第

当日早旦社殿を装飾す
時刻、宮司以下祭員参進
（是より先 手水の儀あり）
宮司以下祭員祓舎に著く
修祓
宮司以下祭員参進
第二宮（第三宮）幄舎所定の座に著く
宮司一拝（諸員之に倣う）
神饌を供す（此の間　奏楽）
宮司祝詞を奏す（此の間　諸員磬折）
宮司玉串を奉りて拝礼（祭員列拝）
神饌を徹す
（この間奏楽　警蹕諸員磬折）
宮司一拝（諸員これに倣う）
※　引き続き第三宮奉祝祭斎行
（次第は第二宮奉祝祭次第に順ずる）
奉祝行事　神楽　悠久舞奉奏
参列員玉串を奉りて拝礼
（参列員列拝）
各退出

平成二十九年十月二十八・二十九日
第三十七回全国豊かな海づくり大会福岡大会

宗像ユリックスで式典、海女発祥の地・鐘崎で歓迎、放流行なわれる。

全国豊かな海づくり大会は魚食国である日本人の食卓に、安全で美味しい水産食料を届けるために、水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く国民に訴えるとともに、つくり育てる漁業の推進を通じて、明日のわが国漁業の振興と発展を図ることを目的として、昭和五十六年に第一回大会が大分県で開催されて以来、毎年各地で行なわれている。三十七回目を迎える本年は福岡県が開催地となり、主会場が宗像市となっている。

天皇皇后両陛下におかせられては大会式典にご臨席することが慣例となっており、全国植樹祭・国民体育大会と並び「三大行幸啓」の一つに位置付けられている。

福岡大会は「育もう海人　地域　みんなの未来」というテーマの下、十月二十八日・二十九日に宗像市のほか県内各所で関連行事が行われる。

宗像市では宗像ユリックスが式典会場となる。地元小学生や水産高校生による海の環境保全活動の発表が行なわれ、放流行事の会場となっている鐘崎漁港では、稚魚の放流のほか、漁業従事者による漁船での海上パレードなどが行われる。

海でのゴミ拾い活動

鐘崎は海女発祥の地

放流行事

神宮神宝より紐解く 3

元神宮式年造営庁技師　釆野　武朗

前回は装束神宝の「装束」の種類とその内訳について述べましたが、今回は「神宝」について述べます。

神宝は神々の御用に供する調度の品々で、これらも次のように六種類に分類されます。

一、紡績具・紡織具　五三点

金・銀銅御楯九基　金・銀銅御桙九枚

金・銀銅御麻笥九口　金・銀銅御鏄三枚

御楯三基　御桙三枚　御麻笥三口

御鏄三枚　御篋四枚　御木絡練四基

御高機一具　金銅御高機二具

二、武器・武具　三八〇点

御弓五九張　御靭一〇三腰

御胡籙一一腰　御矢八束

御鞆二九枚　御太刀六〇柄

御鉾五五竿　御楯五五枚

三、馬具　九点

御鞍三具　御彫馬六匹

四、楽器　二点

御琴二面

五、文具　八点

御硯八面

六、このほかの日常具　三九点

御鏡五面　御玉一顆

五色御玉二連　御荒筥二合

御冠一具　御笏一握

御檜扇一柄　御玉佩筥二合

御脇息一脚　御牀几・呉床二具

御小刀二柄　御鈴八口

御香爐一枚　御香箸一雙

御火桶二口　御大笥七口

御玉（倭姫宮神宝）
神宮司庁提供

これらの品目にも装束と同様に御太刀を佩く平緒や鮒形、太刀袋、また御玉を納める玉筥など、神宝の附属御料が皇大神宮で一〇五点、豊受大神宮で四三点、皇大神宮の別宮で一三三点、豊受大神宮の別宮で四〇点、合計三二一点を数えます。これらに前回記載の装束の附属御料を合わせると合計で五九八点となり、先にも記したと同様にこれらも装束神宝の定数の中に包含されます。

神宝はこのように大別して六種類に分類されますが、その附属御料も含めいずれの形状にも、神々の御料に相応しい高位の品格を示す加飾が仕様書に記されています。その仕様上に定められる技術が、現在の神宝製作に携わる職匠の技巧力を更に上へと押し上げます。

神宝館だより 7
八万点ノ国宝収蔵

平成二十二年、当大社の協力のもと宗像市が主体となり、大島の最高峰御嶽山（標高二二四m）山頂にある大島御嶽山遺跡の調査が実施された。宗像市神湊から北西十一km沖合の大島には、南側の港近く、御嶽山東麓に中津宮が鎮座する。同宮境内の裏から山頂へと参道がのびていて、山頂に鎮座する中世由来の同宮摂社御嶽神社に隣接して祭祀遺跡は存在する。

沖ノ島祭祀遺跡について、第三次調査報告書『宗像沖ノ島』では、奉献品の内容と出土状況、遺跡の立地を細かく整理、分析して、岩上祭祀→岩陰祭祀→半岩陰・半露天祭祀→露天祭祀の四段階の変遷が明示された。これは、遺跡の学術的意義を判断、理解する際や、遺跡の性格や変容などを検討する場合の基本となっている。

御嶽山遺跡の調査では、頂上の高まりの縁辺で、丸底の須恵器大甕を安置するために、地面を掘り窪めて大甕を据え置いた状況が確認された。この状況は沖ノ島祭祀の四段階の変遷に当てはめれば、半岩陰・半露天祭祀の段階にあたる五号遺跡の露天部分でも確認されており、露天での祭祀行為を示す。また、遺跡からは金属製雛形品（武器・円板・容器・琴状品・鐸状品）、奈良三彩小壺、八稜鏡、滑石製形代（人形・馬形・舟形）、土器など、沖ノ島祭祀の半岩陰・半露天祭祀、露天祭祀の段階の奉献品と共通するものが出土した。時期が判る出土品からみると、七世紀末～十世紀初頭の時期、つまり、半岩陰・半露天祭祀段階に始まり露天祭祀段階を主体とする、沖ノ島の国家祭祀に密接に連動して営まれた祭祀遺跡であることが判明した。（福）

滑石製形代

参拝規制のお知らせ

10月29日(日)特別参拝により左記の通り規制をさせて頂きます。

規制内容・時間【10月29日】

○神門閉鎖（本殿）……13時～16時30分
○境内立入規制……14時～16時30分
※参拝は祈願殿でお願いします。
○神宝館……13時閉館（最終入館12時）
○第2駐車場……終日閉鎖
○第3駐車場……関係車両のみ

第674回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切

球磨川に朝霧深く立ち込めて川縁散歩八十路の夫婦　秋吉　嘉範

幸せな景。八十代のご夫婦が作者なら〈われら〉に。二句のルビは不要、四句〈散歩す〉。

青々と庭の薄は高く伸び風の吹くまま大揺れ小揺れ　大和美由紀

結句が魅力的。上下句を入れ替え〈吹く風に大揺れ小揺れす青々と高く伸びたる庭の薄は〉。

大樹なる桜が風に大ゆれし枝を移らん蝉の飛びたつ　佐々木和彦

一瞬をよく見ている。強風に驚いた蝉が安全な場所へ移るのだろう。四句〈～を移ると〉。

末の子が家を継ぎしを見届けてもみじ苑にわれは入所す　豊田ミツ子

上・下句を入れ替え〈もみじ苑に～末の子が～見届けしのち〉。作者の意が鮮明になる。

小鮒など採りつつ仰いでゐた丘が世界の丘だ奴山古墳群　山﨑　公俊

世界遺産に登録された古墳群を感慨を持って見上げる作者。四句〈世界遺産だ〉と。

名を知りてせがむ娘の待ちわびる蛍袋は蛍の里へ　早川　祥三

蛍袋の花に惹かれた子と父の情愛。結句は〈蛍の里で〉と助詞を変えたい。

ハンガーに干されるTシャツ三枚は風吹くたびに肩ふれ合わす　萩原　勉

三人の仲の良い友のようなTシャツが楽しい。初句は〈ハンガーで〉でも。

三姉妹そろってこその護りなり我が宗像よわだつみのくに　浅川　紀野

宗像賛歌。初句は〈三女神〉、三・四句ルビをはずし〈宗像なりわがふるさとの〉と。

若きらに負けじと歩みつづけしがはや街路樹の木陰に憩ふ　池浦千鶴子

若者にまだ負けたくない作者。三句以下〈来たれども街路樹のかげにしばしを憩ふ〉。

家壁にしがみ付くごと空蝉の生き抜きしものの証ぞ見ゆる　森　龍子

蝉の命を見た作者。二句以下〈～ごとし生き抜きて羽化せし証蝉のぬけがら〉と。

日曜の川辺釣り人見かければ橋に佇み亡き父探す　本田エリナ

釣り好きだった父を恋う作者。二句〈川辺に～〉結句〈亡き父思う〉くらいに。

エゴの花散らばる陰によけて立つ登る人等の汗ふくところ　吉崎美沙子

エゴの花が咲くのは六月、爽やかな山の歌。三句〈道よける〉ではいかが。

第647回　俳句

陸風の渚尾を引く夜光虫　早川　祥三

◆選者詠

できたての歌はすぐさま溶けるから
急ぎ凍らす記憶の庫で

脱皮してやがて羽化するやうな生
信じていたり十二のわれは

御造営奉賛者御芳名

（平成二十九年八月）（順不同・敬称略）

一、〇〇〇、〇〇〇円
古賀市　萩原　実
福岡市　大江　光男

五〇〇、〇〇〇円
豊島区　福島サト子
福岡市　大江　光男

一〇〇、〇〇〇円
宮若市　鶯　愛　会

三〇、〇〇〇円
池田市　上羽宏・薫
福岡市　是枝　周樹

二〇、〇〇〇円
福岡市　平田喜代美

一〇、〇〇〇円
新宿区　中島一夫・まゆみ
新宿区　草場　秀昭
草加市　大久保雄司
所沢市　土山　祐美
長久手市　口野　大介
奈良市　加藤　真義
練馬区　髙橋　浩昭
宗像市　金橋　邦勝

五、〇〇〇円
市原市　安藤由喜子
今治市　武田　明敏
宇部市　三野　勝司
遠賀郡　安達　規子
鹿児島市　江口竜二郎
鹿児島市　熊野　純泰
川崎市　吉川　俊雄
川崎市　柿本　広大
川崎市　中谷　康司
北九州市　佐野　昌子
北九州市　木原　和子
北九州市　田中　義勇
呉市　上條　増徳
古賀市　本多　秀平
静岡市　池田　信枝
世田谷区　広瀬　朋子
調布市　井上アン・菜々
鳥取市　髙取まゆみ
長崎市　小坂　明弘
長崎市　坂上　径輔
浜松市　渡辺浩太郎
福岡市　濱本慶二郎
船橋市　坂井　公則
前橋市　渡辺富美子
宮崎市　畑中美智子
横浜市　古堀太佳志

三、〇〇〇円
出水市　川本富次郎・川本秋美・宗像チエ
市川市　鷲頭　竜彦
大阪市　福地　昭義
岐阜市　林　和志
高島市　松本　誠
宗像市　藤島登志男

二、二〇〇円
福岡市　荒牧　英敏
福岡市　黒葛川雅広

二、〇〇〇円
相生市　川上　伸二
朝倉市　永野　勘十
大分市　秦野　克彦
大田区　金箱　純子
嘉穂郡　吉貝利喜・浩美・龍哉・盛紀
川崎市　浦瀬　哲史
北九州市　島津瑞穂子
北九州市　秋吉　幸
京都市　飯田　卓
熊本市　桑田　美咲
久留米市　廣瀬　進・容子
古賀市　寺田　千春
さいたま市　中村　聡
山陽小野田市　源尊弘（牧貴弘）
品川区　宗像　慶輔
周南市　磯野　芳毅
大東市　竹田　律子
宝塚市　小塩　光枝
名古屋市　村山　雅子
新潟市　阿部　優子
練馬区　田邊　聡子
広島市　茂藤　武弥
福岡市　松本　紀子
福岡市　前田　美基
牧之原市　幸谷　義則
横浜市　山内　憲司
　　渡邉　匡一

むなかた
神無月（かんなづき） 第680号
2017年10月1日発行（月刊）／宗像大社 〒811―3505 福岡県宗像市田島2331 電話(0940)62―1311(代) http://www.munakata-taisha.or.jp/

10月 まつりごよみ

1日	みあれ祭・辺津宮入御祭	
2日	例祭	午前11時
3日	秋季総社祭	午前11時
	引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭、宗像護国神社秋季大祭	
	南坊流献茶祭	午後 2 時
	高宮神奈備祭	午後 6 時
15日	総社月次祭	午前11時
	引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭	
17日	表千家献茶祭	午前11時

編集後記

日中まだまだ暑い日が続きますが、朝晩は幾分涼しくなってきた。ここ最近季節がまた一つ進んだように感じる▼秋は日の出から日没までの時間が四季のなかでも一番短い季節である。そこから秋の夜長という言葉が生まれている▼温暖化の影響もあり9月は秋といえるような気候ではなかったが、ゆっくりとした時間をとることができる秋の夜長・・・▼このスローな時間を有意義に過ごし、これから来る秋冬の神明奉仕の英気を養いたいと思う。（黒）

宗像大社